



# 佐久森林組合のSDGs宣言！



**持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）**とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます（外務省サイトより）。

私たち、佐久森林組合では、以下のような事業・取組を通じて、SDGsの達成を目指しています。

長野県SDGs推進企業登録 1235 2022年1月31日登録

## 森林整備を通じた自然資源の保全



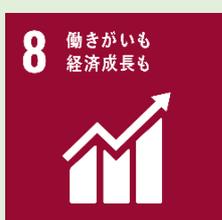
地域の森林整備を通じて、国土の保全、水源のかん養、土砂災害の防止、温室効果ガスの吸収、レクリエーション機能など、森林が持つ公益的機能を発揮し、自然環境の保全とともに、生活環境の安全及び豊かな暮らしを支えます。

## 持続可能な林業とまちづくり



森林を伐採した後は再造林を行い、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環を維持し、山の豊かさを保ちます。適切に整備・管理された健全な森林があることで、雨がゆっくりと海まで流れ、土砂災害の発生抑止や大規模化を防止します。

## 働き甲斐のある職場づくりと健全経営



安心・安全で働きがいのある職場をつくり、健全な経営により、組合員、職員の満足を実現します。

## 森林認証の取得および認証材の普及・啓発



木材が、持続可能に管理された森林から伐採され、適正に流通したものであることを証明する仕組みである森林認証（CoC認証）を取得し、認証材の生産・流通を進め、消費者の安心・信頼に応える木材の供給を行います。認証取得にあたっては、森林の生態系に配慮することも求められ、山から川・海へとつながる多様な動植物の保全に貢献します。

SGEC 統合CoC管理事業体 JAFTA-W228-4 2017年7月1日認証

## バイオマス発電による脱炭素社会



化石燃料由来のエネルギー利用の減少に向け、従来用途がなかった伐採時に発生する曲がり材や木の枝などをバイオマス発電所に供給し、無駄なくエネルギーとして利用することで、地球温暖化対策の推進に貢献します。



黄葉したカラマツと伐採後の再造林地（小諸市）

戦後造林されたカラマツ林が成熟し、伐採時期を迎えています。

佐久地域のカラマツは品質が高いとの評価を受けており、建築材をはじめ、合板・土木用材等として活用され、年々需要が伸びています。

伐採後には再造林・保育作業を行い、未来につながる持続可能な循環型の林業を構築を目指しています。

以上の事業および取組について、お問い合わせや事業連携等のご提案などありましたら、お気軽にお問い合わせください。